

あいちトリエンナーレ
大学連携プロジェクト

批評する身体

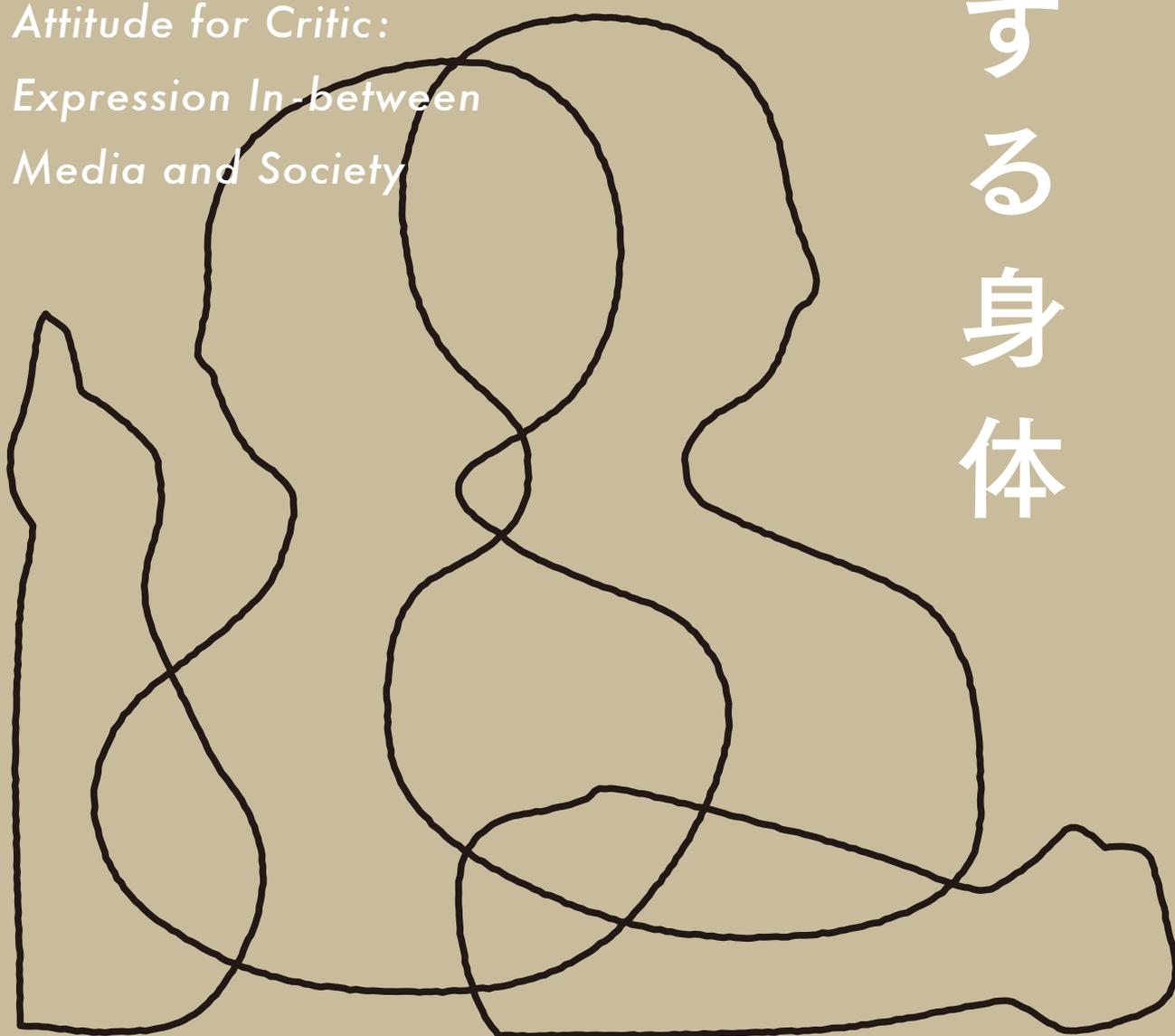
アーティスト

大崎のぶゆき

松野真知

磯部由香子

*Attitude for Critic:
Expression In-between
Media and Society*



メディアと
社会と
表現と

2018年2月24日(土) - 3月25日(日)

開館日時 | 金曜 - 日曜、祝日 11:00 - 19:00

主催 | あいちトリエンナーレ実行委員会、アートラボあいち
愛知県立芸術大学、名古屋芸術大学、名古屋造形大学


ART LAB AICHI

観覧無料



“skin hole / skin sense” Project [#01 Düsseldorf] 2003年

Masatomo Matsuno



《Fragment-牧草の山でパフォーマンス》



《Untitled-牡牛座の石》

Yukako Isobe



《SPACE 15-2》2015年



《SPACE 16-1》2016年

批評する身体：メディアと社会と表現と
大崎のぶゆき 松野真知 磯部由香子

身体を用いた芸術表現は、歴史を振り返ると多様なかたちが存在します。もちろん、絵画は筆をもつ作家の腕のストロークが生み出しますし、彫刻は文字通り「彫り」「刻む」ことで像を生み出す立体表現であり、「身体」と無関係な表現など存在しないと言えるでしょう。

一方で、戦後から現代の芸術表現に目を向けると、様々な技術やメディアの飛躍的な発達に伴い、身体を駆使しつつも、それらを取り入れた新たな表現の形式が生まれ、その時代や社会を批評的に捉え記述していくという状況も築かれているでしょう。

例えば、フルクサスに代表されるイベントやハプニング、ゴードン・マッタークラークの行為を記録する映像、あるいはクリストの「梱包」のように、身体のみならず、その行為がいかに記され伝えられるか、メディアの存在や性質を強く意識した芸術表現は、現在まで様々なかたちで実践・継承され、新たな表現が生まれています。

近年の社会の動向を振り返ると、2000年以降現在まで、私たちの日常生活を取り巻くメディア環境はたった数十年で大きく変遷しています。誰もがスマートフォンを手にしている状況を15年前に想像できたでしょうか？アーティストの作品は、その時代のメディアや技術にも大きな影響と刺激を受け、ときにそれらに疑問を投げかけることもあります。

本展は、愛知県立芸術大学、名古屋芸術大学、名古屋造形大学より推薦されたアーティストを各大学より1名ずつ選出し、実施するものです。

【関連イベント】

アーティスト・トーク：2018年2月25日(日) 17:00-18:30

大崎のぶゆき（愛知県立芸術大学准教授）

1975年大阪府生まれ。2000年京都市立芸術大学大学院美術研究科絵画(版画)専攻修了。2012年より愛知県立芸術大学准教授。私たちをとりまく世界を知覚するべく、自身の存在を軸に思考し、溶けるように変容する絵画を用いた映像作品など、曖昧さや不確かさを探求する作品を制作する。主な展覧会に、「VOCA 2013 現代美術の展望—新しい平面の作家たち」(上野の森美術館、東京/2013年)、「未見の星座」(東京都現代美術館、東京/2015年)、「となりの人びと—現代美術in春日井」(文化フォーラム春日井、愛知/2016年)、「Noemi Weber/Nobuyuki Osaki」(ルートヴィヒ・フォーラム美術館、アーヘン[ドイツ]/2017年)。

松野真知（名古屋芸術大学卒業生）

1983年福岡県生まれ。2007年より休学し、約1年間就農。2010年名古屋芸術大学美術学部絵画学科洋画コース卒業。卒業後も松野牧場にて酪農の仕事しながら作家活動を続け、そこで経験している家畜や農作物に纏わる環境などをテーマに制作活動に取り組んでいる。主な展覧会に、「直観」のジオラマ-九州・沖縄アーティストファイル断章- (福岡市美術館、福岡/2014年)、「漂着」(Operation Table [Qmac]、北九州/2015年)、「かがわ・山なみ芸術祭-人・深谷・水の流域-」(五郷地区観音寺エリア、香川/2016年)、「宇宙現代美術展 outer scape | 外壘」(渡辺翁記念館、山口/2017年)、「山口盆地考-吹き渡る風が-」(中原中也記念館、山口/2018年)。

磯部由香子（名古屋造形大学卒業生）

1988年愛知県生まれ。2013年名古屋造形大学大学院造形研究科修士課程修了。幾何学的で豊かな色面により画面を構成した抽象絵画を制作。主な展覧会に、「オバケに100回触れてみる Touch the invisible things」(愛知県美術館ギャラリー、florist gallery N、愛知/2015年)、「清洲市第8回はひ絵画トリエンナーレ作品展」(清洲市はるひ美術館、愛知/2015年)、「PARAPHRASE PART II 磯部由香子 花木彰太 森井開次」(GALLERY VALEUR、愛知/2016年)、「イタズ・リグラフィック | 密柑山スケッチブック」(See Saw gallery+hibit、愛知/2017年)。

愛知県立芸術大学



NAGOYA ZOKU UNIVERSITY OF ART & DESIGN

同時開催

ALA screen 004：萩原健一
Kenichi Hagiwara《sight seeing spot》

アートラボあいち2階にて、映像作品を上映するプログラム「ALA screen」を実施します。4回目は、様々な視覚メディアを駆使して静止画や映像による作品を制作している萩原健一さんです。2007年に制作された、《sight seeing spot》を展示します。この作品は、写真を撮影する時に起こる、理想のセルフイメージを得ようとする人間の振る舞いに着目した動画ポートレート。有名観光地を回って「自分撮り装置(プリクラ)」を設置し、そこに訪れる人々が自分自身と向き合う姿を高精細に記録しています。

アートラボあいち

11:00-19:00 (金土日・祝のみ開館)
〒460-0002 名古屋市中区丸の内三丁目4-13
(愛知県庁大津橋分室2階・3階)
TEL & FAX : (052) 961-6633
E-mail : ala@aichitriennale.jp
aichitriennale.jp/ala/

【アクセス】
地下鉄名城線「市役所」4番出口より徒歩5分
地下鉄桜通線・名城線「久屋大通」1番出口より徒歩8分

ART LAB AICHI

